

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第49期報告書

[2011年4月1日～2012年3月31日]
2012年6月発行

株主・
投資家の
皆さまへ



光のものがたり
光で治す。

CONTENTS

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| 2 株主の皆さまへ | 9 グループトピックス | 17 第49期の事業概況 |
| 4 光のものがたり | 10 セグメント別の概況 | 18 株式の状況 |
| 6 光テクノロジー&フロンティア | 14 連結決算 | 19 会社概要 |

USHIO

ウシオ電機株式会社



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第49期(2012年3月期)報告書「PRISM」をお届けし、当期のウシオグループの事業環境や各事業の概況、および今後の取り組みについてご報告申し上げます。

2012年3月期は、増収減益

当期の売上高は、前期比3.4%増の1,500億円となりましたが、営業利益は23.8%減の106億円、経常利益は24.5%減の131億円、当期純利益は8.7%減の87億円となり、増収減益となりました。

増収の要因は、装置事業が大幅に伸長したことによります。な

かでも映像装置は14%の伸びを示しました。しかし、光源事業の市場が停滞したことや、装置事業が国内エレクトロニクス業界の低迷の影響を受けたこと、秋口からの急激な円高の影響などにより、利益項目では減益を余儀なくされました。

配当につきましては、長期的安定配当という方針から、当期は22円の据え置きとさせていただきます。

DCPをはじめ映像分野は、引き続き好調

当期、映像分野ではデジタルシネマプロジェクト(DCP)の出荷台数が過去最高となりました。アメリカ、ヨーロッパ、日本など先進国に加えて、アジアや南米を含む新興諸国への出荷台数が増えたことによります。現在、中国をはじめ経済力を増してきた新興国では、シネマコンプレックスシアターの建設が隆盛となりつつあるため、当面DCPIは安定的な収益源になるものと考えています。

また、ノンシネマ事業では、プロジェクトに加え、ソフトウェア、システムなどを含めたトータルでのビジネス展開を推進しており、今後の進展が期待されます。

エレクトロニクス分野では将来を見据えた投資を強化

一方、エレクトロニクス分野では、スマートフォンやタブレット型端末向け市場が好調に推移したものの、長引く景気低迷の影響を受け、装置事業の売上高は微増にとどまりました。また前期に引き続き、顧客製造ラインの稼働率が悪化傾向にあったため、光源事業の売上高も減少しました。

ウシオグループでは、生産性の向上や製造コストの削減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、適地生産の促進等に引き続き全力で取り組みながら、一方では、今後のエレクトロニクス業界の動向を踏まえ、EUV光源装置など、将来に向けた新技術・新製品の研究開発に積極的な投資を行ないました。

中期ビジョン

定量目標

	2015年3月期(計画)
売上高	2,000億円
営業利益	250億円
ROE	10%以上

成長のための重点事業戦略

- 映像装置 デジタルシネマ事業の収益確保
ノンシネマ事業の成長と拡大(成長ドライバー)
- 光学装置 液晶・半導体・高精細プリント基板製造を支える製品の提供(成長ドライバー)
露光装置:アドテックエンジニアリングとのシナジー
液晶パネル製造用装置:大型テレビ用以外にも展開
新プロセスの拡販
- その他 次世代半導体製造用、最先端露光事業(EUV)の確立
新製品、新事業(メディカル、ライフサイエンス)
固体光源
業務提携・合併・M&Aの推進

アドテックエンジニアリングを子会社化

当期は、プリント基板用の露光装置で非常に高い技術とマーケットシェアを有する株式会社アドテックエンジニアリングがウシオグループの傘下に入りました。これまでもウシオは、露光装置を得意としてきましたが、プリント基板に強みを持ち補完関係にあるアドテックエンジニアリングが加わることで、より一層ウシオグループの商品力が高められるものと考えています。

また、アドテックエンジニアリングは韓国、台湾、中国などアジア地区での販売力に定評があり、今後ウシオグループとしてさらにプリント基板分野へ注力していくと同時に、海外展開にもより弾みをつけていく計画です。

中期ビジョンと2013年3月期の見通し

このほど発表した中期ビジョンでは、ウシオグループのあるべき姿として「光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】を目指す」ことを謳っています。

映像装置では、デジタルシネマ事業で収益を確保しつつ、成長ドライバーであるノンシネマ事業の成長と拡大を図ります。光学装置では、液晶・半導体・高精細プリント基板製造を支える製品

群を成長ドライバーとし、次世代半導体製造用、最先端露光事業(EUV)の確立と収益への貢献を急ぐ考えです。

2013年3月期は、国内では東日本大震災の復興需要や為替相場の安定等により穏やかな景気回復が見込まれるものの、世界経済においては欧州の金融不安が続くと思われることから、依然不透明な状態が続くとみています。しかしウシオグループでは、中期ビジョンの目標達成を目指し、各種施策遂行を通じて、2013年3月期の売上高を前期比9.9%増の1,650億円、営業利益12.2%増の120億円、経常利益10.6%増の145億円、当期純利益14.3%増の100億円とする増収増益を見込んでいます。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2012年6月
代表取締役社長・CEO

菅田史朗

「光で治す」

自己免疫疾患という病気をご存知でしょうか。多くの人を悩ませている、いわゆる「アレルギー反応」の一種です。細菌やウイルスなど外部からの攻撃に対して自分を守る働きをする免疫細胞(白血球)が、ある日突然、自分自身を攻撃しはじめることで発症してしまうこの厄介な病気に対し、光による治療法が大きな成果を上げはじめています。

あの病気も「アレルギー」だった!?

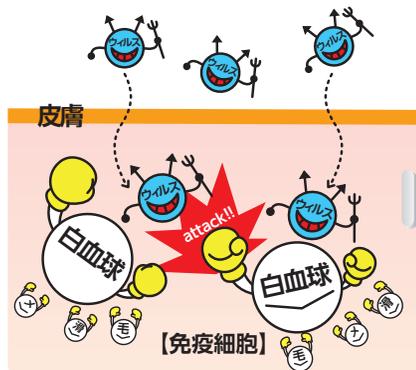
アレルギー反応としてよく知られている花粉症やじんましん、アトピー性皮膚炎。しかし最近では、白斑、乾癬、円形脱毛症、掌蹠膿疱(しょうせきのうほう)症など従来皮膚病とされてきたものから、関節リウマチのようにまったく違う症状を呈するものまでもが、実はアレルギー反応の一種である自己免疫疾患であることがわかっています。

では、なぜアレルギー反応(自己免疫疾患)はこのように一見別の病気に見え、症状にまったく共通性がない多くの疾患を引き起こすのでしょうか。その理由は、免疫細胞である白血球が活性化しすぎて暴走し、間違っ自分の体内細胞を攻撃してしまうからなのです。

白血球が仲間を攻撃!?

たとえば、国内の患者数が10万人にのぼるといわれる白斑は、皮膚の中で色素を作る細胞であるメラノサイトが、暴走した白血球の攻撃によって機能を失い色素を生成できなくなることで発症します。同じように、円形脱毛症では毛母細胞、関節リウマチでは関節の滑膜細胞が攻撃され、機能を失った結果、発症するのです。

いつもの自己免疫機能



内的、外的要因で...



白血球が暴走!!



皮膚アレルギーに紫外線治療

従来、皮膚アレルギー疾患には内服および外用の薬剤などが多く処方されていました。しかし、なかなか症状が改善せず、さらには副作用が出るなど課題もありました。これに対し、近年注目を集めているのが紫外線治療です。

攻撃される細胞により全く違う症状

皮膚の色素を作る
[メラノサイト]を攻撃 → 白斑に

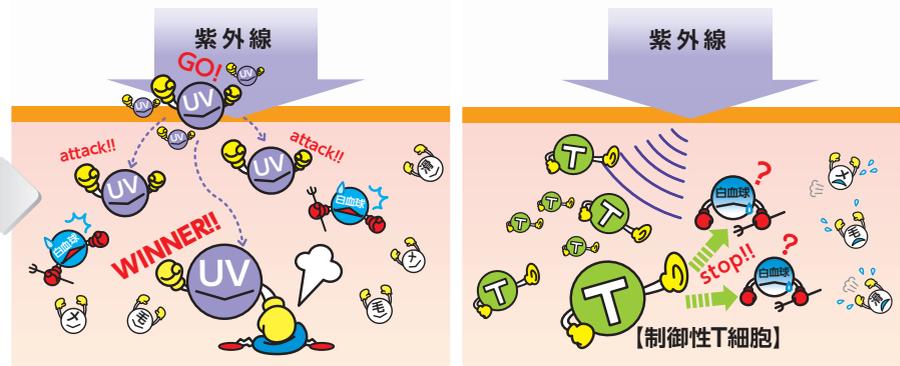
関節の「滑膜細胞」
を攻撃 → 関節リウマチに

「毛母細胞」
を攻撃 → 脱毛症に

紫外線治療のメカニズムは2つ

たとえば、皮膚アレルギーのひとつである乾癬に対して、紫外線が働きかけるメカニズムは2つあります。ひとつは、直接病気の原因となっている暴走した白血球を壊してしまうこと。もうひとつは、「制御性T細胞」と呼ばれる別の白血球の数を増加させ、暴走している白血球の活性を低下させることです。つまり、紫外線には暴走して自分の細胞を攻撃している白血球の数を減らしたり、攻撃力を落とす作用があり、それによって症状の進行を止めたり、治療することができます（免疫抑制効果）。

乾癬に対する紫外線治療



重要なのは「波長」

しかし、紫外線なら何でも良いというわけではありません。ご存知の通り、紫外線には有害な成分も含まれています。治療効果が高く、副作用が限りなく少ない波長のみを安定して照射でき、安全に、かつ安心して使用できる光線療法機器が求められているのです。

すべては患者さまのために

「光線治療とエキシマフィルター」

紫外線の免疫抑制作用を利用し、過剰反応を起こしている皮膚の症状を鎮静化させる「光線療法」。1970年代に、ハーバード大学で乾癬治療における紫外線の有効性が発見されて以来、主に治療で使われてきたのは311ナノメートル(nm)付近の紫外線でした。しかし実は、どの波長がどの程度の効果と副作用をもたらしているのか厳密にはわからないままであり、さらに効果の高い波長の存在も指摘されていましたが、解明には至っていませんでした。



治療効果が高く、副作用を低減した光を

その解明に挑んだのが、ウシオと名古屋市立大学加齢・環境皮膚科学(森田明理教授)との共同研究チームです。「治療効果が高く、副作用を低減した光」を求めて波長を細かく分析した結果、治療効果は308nmをピークとしつつ、肌が赤くなるなどの副作用が生じる297nm以下の波長をカットした光が、最も効果的な光であるとの結論に達しました。

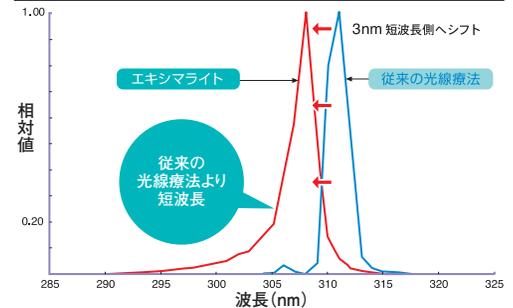
これまで誰も特定することができなかったその光は、従来の光線治療で使用されていた波長311nmよりもわずか3nm短い波長にも関わらず、より高い治療効果が期待できるようになったのです。

世界初の光技術「エキシマフィルター」

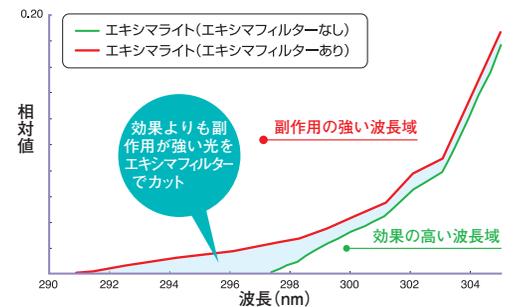
共同研究チームは、ウシオが世界で初めて製品化に成功したエキシマランプを応用し、1970年代当時の技術では発光できなかった波長308nmをピークとする光源を開発。さらに、副作用が大きい297nm以下の短波長域を取り除くエキシマフィルターの開発にも成功しました。

そして2008年、独自の光技術が搭載されたエキシマライトによる光線治療器を実用化し、安全で治療効果の高い光線療法機器が実現しました。世界初の308nmエキシマライト&エキシマフィルターが搭載された皮膚科用「セラビーム®UV308」の誕生です。

波長比較



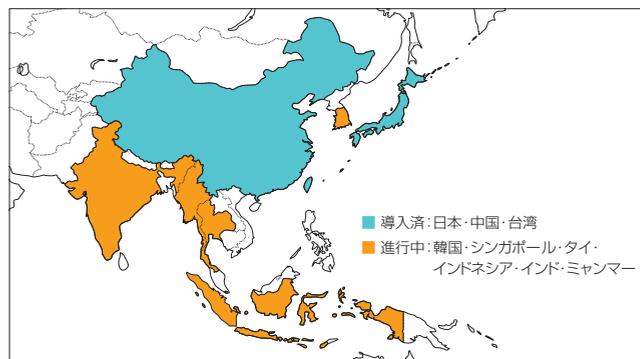
安全性とバランスの効果



国内シェアトップから世界へ

発売以来、皮膚科用「セラビーム®UV308」は、高い安全性と優れた治療効果によって皮膚科医や難治の皮膚病を抱える患者さまから好評を博し、現在、国内市場トップシェア(自社調べ)を獲得しています。すでに中国や台湾では医療機器としての認可を受けて発売を開始しており、さらには韓国やインドなどアジア全域をはじめ、アメリカ、ヨーロッパなど世界へ展開していく計画です。また今後は、患部の範囲や部位によって照射範囲や位置を自在に選べるよう、全身照射が可能な大型タイプから、頭部専用器や小型で扱いやすいものまでラインアップの拡充を進めています。

セラビーム®UV308の販売域



「セラビーム®UV308」導入施設(国内／一部抜粋)

現在、セラビーム®UV308は皮膚科領域の治療現場で使用されています(具体的に保険適用される疾患は、アトピー性皮

膚炎、乾癬、白斑、掌跖膿疱症、類乾癬、悪性リンパ腫、菌状息肉症などです)。今後は、さまざまなアレルギー疾患でお困りの患者さまに光の技術をお届けしたいと考えています。

北海道	小樽皮膚科、札幌皮膚科クリニック、川村皮膚科医院、新琴似皮膚科スキンケアクリニック、福住皮膚科クリニック、いなむら皮膚科医院、みゆき皮膚科クリニック、足立皮膚科美容外科クリニック	聖路加国際病院、原本クリニック、まちこ皮膚科クリニック、清水皮膚科医院、もりや皮フ科形成外科クリニック、今井皮フ科形成外科クリニック、順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者 医療センター	名古屋大学医学部附属病院、独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター、社会保険中京病院	香川県	渡辺医院、三豊総合病院、はら皮膚科クリニック
青森県	クロース・トゥー・ユーEST2クリニック、長島皮膚科クリニック	千葉県	山崎医院	徳島県	藤本皮膚科クリニック
秋田県	御所野ひかりクリニック、仲小路皮膚科医院	神奈川県	杉本皮膚科、斉田皮フ科、聖マリアンナ医科大学病院、横須賀市立市民病院、中山皮フ科クリニック、加藤皮フ科、楠クリニック、横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院、ますみ皮膚科、山川皮ふ科、シオン皮フ科クリニック	愛媛県	愛媛大学医学部付属病院、愛媛県立中央病院
岩手県	まゆみ皮膚科クリニック、菜園皮膚科クリニック、岩手県立胆沢病院、佐藤皮膚科医院、水沢みなみ皮フ科	新潟県	新大駅前皮フ科	福岡県	ふかまち皮フクリニック、北九州市立八幡病院、産業医科大学病院、医療法人元木皮ふ科クリニック、上野医院
山形県	青木皮膚科医院	長野県	にいざわ皮ふ科、小清水医院、岡谷市民病院	佐賀県	ごとうクリニック、なかふさ皮膚科クリニック
宮城県	谷田皮膚科医院、遠藤皮膚科医院	静岡県	新妻ひふ科、飯尾皮膚科医院、しずおか葵の森クリニック、いしかわ皮膚科・アレルギー科	長崎県	岡田アレルギー科・皮フ科医院、松下ひふ科、一ノ瀬皮膚科医院、前田ひふ科アレルギー科、ひろ皮ふ科クリニック、松永皮膚科、田中皮膚泌尿器科医院、吉村皮膚科医院
福島県	西田皮膚科クリニック	富山県	皮膚科ちえこクリニック、富山県立中央病院	大分県	田村皮ふ科クリニック、医療法人 瀬口皮膚科
茨城県	松永皮フ科クリニック	愛知県	名古屋市立大学病院、たち皮フ科クリニック、サイ皮膚科泌尿器科、愛知医科大学病院、海浜通り皮ふ科、	和歌山県	池畑医院皮フ科、晒医院
栃木県	馬場医院			兵庫県	芦屋柿本クリニック、山村皮フ科、西脇市立 西脇病院、はやし皮フ科クリニック
埼玉県	おうえんポリクリニック			岡山県	水田皮膚科泌尿器科内科、赤磐皮膚科形成外科
東京都	日本大学医学部付属板橋病院、新宿皮膚科、麻布十番皮フ科形成外科クリニック、野下皮膚科、ガーデンクリニック広尾、皮膚科クリニックいとう、しらゆり皮膚科クリニック、			広島県	能宗クリニック
				山口県	太田皮膚科クリニック、えま皮膚科、山口大学医学部附属病院



北九州市立八幡病院 皮膚科
医学博士

藤野 雅世 先生

治療が難しい白斑に高い治療効果

福岡県北九州市の市立八幡病院(市川 光太郎 院長)には、「セラビーム®UV308」が導入されています。ここで、長年白斑の治療に携わってこられた皮膚科医の藤野先生に、「セラビーム®UV308」を導入したことで臨床の現場の治療がどのように変わったか、医師として日々どのように感じていらっしゃるのかを伺いました。

白斑について、教えていただけますか。

白斑という病気は、原因がまだ解明されていない、治療が難しい皮膚病のひとつです。痛みなどはないのですが、症状が見た目に出してしまうので、病気自体というより、それともなう精神的苦痛が大きい病気です。これまで塗り薬や飲み薬を使った治療法はありましたが、そういった治療だけではなかなか治らなかったのです。

光線治療器を導入されて、手ごたえはありましたか。

私は医師として、患者さまと向き合うたびに「できる限り何とかしたい」という思いを持っており、治療手段のひとつとして、このウシオのセラビーム®UV308を導入しました。肌のタイプは人種によってかなり違いますが、セラビーム®UV308は国産の治療器ですので、日本人の肌質に最適な紫外線を絞り込んでいる点が、導入の大きなポイントとなりました。

それでも、当初は本当に治るのかわからない状況でしたが、実際に装置を使ってみて、手ごたえは想像以上だったといえます。

患者さまの反応はいかがですか。

「こんなに短い時間で終わるの!」とみなさん驚かれています。たとえば、白斑では、病変部と健常部分のなじみが非常に良いと感じます。今まで治療をあきらめていた60~70代の患者さまでエキシマライトの治療に希望を持って通院される方が増えてきました。

顔面のかかなり広い範囲に白斑の症状がある7歳のお子さまのケースでは、17回の照射できれいに色素が沈着しました。治療効果が現れると、お子さんの表情もぐっと明るくなりますし、ご家族の喜びがひしひしと伝わってきます。“皮膚科医冥利に尽きる”といえますか、私も喜びでいっぱいになります。

アドテックエンジニアリングが ウシオグループに

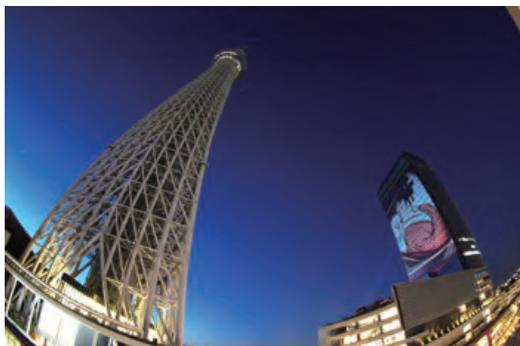
2012年2月、露光装置メーカーである株式会社アドテックエンジニアリングの株式公開買付けを実施し、65%以上の持分比率となったことから、2012年3月期より連結子会社としました。ウシオは従来、プロジェクション方式の露光装置を得意としてきましたが、プリント基板向けのコンタクト露光装置に強いアドテックエンジニアリングが加わったことで、露光装置事業においてさらに強固な基盤を確立しました。



国内初の大規模プロジェクションマッピングに全面協力

クリスティ・デジタル・システムズ(CDS)日本支社は、2012年5月12日、NHK 総合テレビおよびBS プレミアム「東京スカイツリーの魅力 すべて見せます!」で生放送されたプロジェクションマッピング(PM)*に全面協力しました。

国内初の試みとなった今回の大規模なPMでは、20,000ルーメン規模の高輝度プロジェクタを20台以上使用し、東京スカイツリーに隣接するイーストタワーの壁面(横45m・縦90m)に約10分のオリジナル映像を投影。プロジェクタによる映像表現の可能性とともに、CDSの高い技術力を多くの方々に知っていただく機会となりました。



※プロジェクトで建造物等に映像を投影する演出のひとつ。

ウシオシンガポールをウシオアジア パシフィックに社名変更

今後、さらなる発展が期待されるASEAN諸国および南アジアを中心としたアジア全域、オセアニア地域。これらを統括する拠点としての役割をより明確にするため、2012年4月2日付でUSHIO SINGAPORE PTE LTD.を「USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.」に社名変更しました。これによりウシオは、これらの地域ごとに異なる要求性能や価格などのニーズに最適化した製品を提供していくと共に、アジア全域およびオセアニア地域における事業の拡大を図っていきます。

世界最薄の紫外線薄型照度計 「UIT-θ365」

ウシオ電機は、2011年12月より世界で最も薄い4.9mmの紫外線薄型照度計「UIT-θ365」(ユーアイティー・シータ365)の販売を開始しました。主に半導体・液晶製造分野で培ってきたUV測定技術を応用し、かつワイヤレスタイプとすることで、正確なUV照度測定・管理が可能となり、さまざまなUVプロセスにおける品質向上を実現しています。



ファイバー光源式LEDスポットUV 照射装置「スポットキュア SPL-2」

ウシオ電機は、2011年12月よりLEDを本体に内蔵することで課題であった熱問題を解決した、ファイバー光源式LEDスポットUV照射装置「スポットキュア SPL-2」の販売を開始しました。すでにランプタイプのスポットUV照射装置も複数ラインアップし、お客さまへ最適なスポットUVプロセスのご提案を進めています。



装置事業



主な商品

露光装置、光硬化装置、光検査装置など光学装置
 デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、
 デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像装置
 紫外線皮膚治療器、血管可視化装置など医療機器
 次世代半導体リソグラフィ用EUV光源装置

当期の業績

当期の装置事業の売上高は、11.4%増の945億1千1百万円となり、外部顧客に対する売上高のうち装置事業が占める割合は全体の約63%です。なかでも、映像装置は14%の増収、光学装置が5%の増収で、これらが全体の増収を牽引しました。また、セグメント利益は48.3%減の27億9千5百万円となり、増収減益となりました。

需要が拡大しました。ノンシネマ分野においても各種製品の需要が順調に推移し、当期映像装置全体で前期を上回る台数を販売しました。

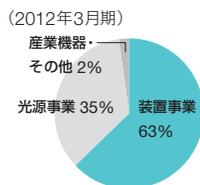
液晶・半導体・電子部品用装置市場では、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大に伴う液晶パネルや半導体への需要は好調に推移しましたが、液晶テレビやパソコンの需要減少による液晶・半導体業界の設備投資の抑制により装置販売が低迷しました。

市場環境

映像装置分野では、世界各地で映写機のデジタル化への投資スキームが立ち上がったことでDCPの

主要数値

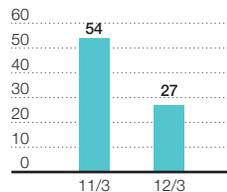
売上高構成比



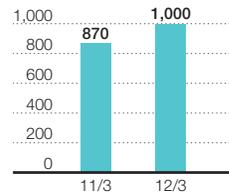
売上高(億円)



セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

■ 装置事業 中期ビジョン定量目標値

	2012年3月期(実績)	2013年3月期(計画)	2014年3月期(計画)	2015年3月期(計画)
映像装置	657億円	610億円	625億円	640億円
光学装置	273億円	410億円	490億円	620億円

2013年3月期の見通し

映像関係では、映写機のデジタル化が進捗した先進国においてスローダウンする可能性があるものの、新興国を中心にデジタル化の進展が見込まれます。また、ノンシネマ分野も好調を維持し、次期も増加を見込んでいます。

液晶・半導体・電子部品用装置市場では依然として調整局面にありますが、在庫調整の進展と、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大により、台湾や中国を中心に堅調な見通しです。

COLUMN

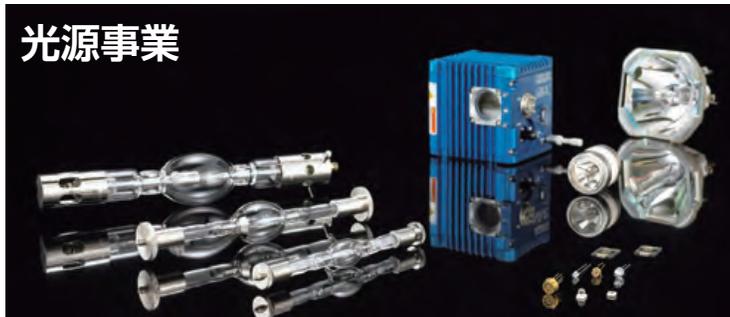
多様なデバイス製造に対応するリングラフィ装置3機種を発表

パワーデバイス製造用として、ラインアンドスペース $2\mu\text{m}/2\mu\text{m}$ の解像性能を持つ新開発レンズを搭載した「UX4-ECO FFPL150」、重ね合わせ精度 $0.5\mu\text{m}$ の性能を持ち、新開発の焦点深度最大 $500\mu\text{m}$ のレンズ・モジュールや、多品種生産対応のオート・マスクチェンジャー・モジュールを搭載したMEMS製造用の「UX4-MEMS FFPL200」、 300mm 一括プロジェクションレンズを搭載した3次元実装用の「UX4-3Di FFPL300」の3機種を新たにラインアップしました。



UX4-ECO FFPL150およびUX4-MEMS FFPL200(左)
UX4-3Di FFPL300(右)

光源事業



主な商品

半導体／FPD／プリント基板製造装置用UVランプ
 各種監視、生体認証、光センサ用LED
 照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用
 など各種ランプおよびLED

当期の業績

当期の光源事業の売上高は、8.6%減の525億3千5百万円となり、外部顧客に対する売上高のうち光源事業が占める割合は全体の約35%です。また、セグメント利益は8.5%減の76億9千9百万円で、減収減益となりました。

市場環境

世界各地で映写機のデジタル化への投資スキームが立ち上がったことによるDCPの売上増加に伴い、DCPに使用されるクセノンランプは増収となりましたが、一方では価格の低下圧力もありました。デー

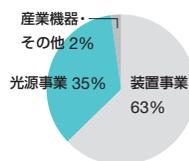
タプロジェクタ用ランプとOA機器用ハロゲンランプは、景気低迷の影響等を受け、減収となりました。

半導体・FPD・電子部品用装置市場では、液晶テレビやパソコンの需要減少による液晶・半導体メーカーにおける設備の稼働率低下により、半導体・FPD・プリント基板装置用UVランプの需要が低迷しました。

主要数値

売上高構成比

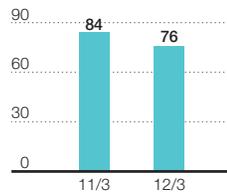
(2012年3月期)



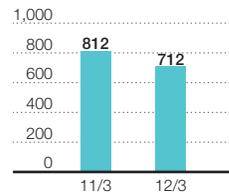
売上高(億円)



セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

■ 光源事業 中期ビジョン定量目標値

	2012年3月期(実績)	2013年3月期(計画)	2014年3月期(計画)	2015年3月期(計画)
ハロゲンランプ	115億円	120億円	120億円	120億円
放電ランプ	411億円	450億円	500億円	550億円

2013年3月期の見通し

DCP向けクセノンランプの販売は、新興国を中心に需要増を見込んでいます。OA機器用市場は、新興国での成長が期待され、2013年3月期の上期より製品の出荷増となる見込みです。

液晶・半導体・電子部品用装置市場では依然として調整局面にありますが、在庫調整の進展と、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大により、設備稼働率の回復も期待され、UVランプの需要も堅調な見通しです。

COLUMN

照明用LEDのラインアップを強化

被照射物の色彩を、鮮明かつ忠実に再現するLEDスポットライト「Cool Spot LED (クールスポット LED)」のラインアップを拡充しました。新たに、黒のボディカラー、色温度3,200ケルビン、狭角レンズを加えることで、アプリケーションがさらに広がっています。また、一般照明、商業施設・店舗照明などで多く使用されているハロゲンランプの代替光源として、「LEDIU LED電球 ダイクロハロゲン形 JDRφ70タイプ」、「LEDIU LED電球 ダイクロハロゲン形 JDRφ50タイプ(65W相当)」の販売を開始しました。「ダイクロハロゲン」が発する光の質、明るさ、サイズを忠実に継承し、ベース照明用としても十分な光量を備えています。



貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期 (2012.3.31)	第48期 (2011.3.31)	科目	第49期 (2012.3.31)	第48期 (2011.3.31)
資産の部			負債の部		
流動資産	143,120	130,730	流動負債	40,634	41,458
現金及び預金	41,692	38,496	支払手形及び買掛金	18,477	18,052
受取手形及び売掛金	37,582	34,300	短期借入金	4,383	6,512
有価証券	12,043	8,447	その他	17,773	16,893
商品及び製品	22,207	23,065	固定負債	21,729	17,966
仕掛品	8,314	6,675	長期借入金	7,439	4,922
原材料及び貯蔵品	9,918	9,766	繰延税金負債	5,954	8,277
繰延税金資産	5,065	4,593	その他	8,335	4,767
その他	6,819	5,805	負債合計	62,364	59,424
貸倒引当金	△523	△419	純資産の部		
固定資産	81,292	86,561	株主資本	158,341	155,544
有形固定資産	37,827	36,457	資本金	19,556	19,556
建物及び構築物(純額)	16,780	15,708	資本剰余金	28,371	28,371
機械装置及び運搬具(純額)	4,803	5,441	利益剰余金	122,642	116,831
土地	8,885	8,849	自己株式	△12,228	△9,215
その他	7,357	6,457	その他の包括利益累計額	524	622
無形固定資産	3,900	3,039	その他有価証券評価差額金	12,628	12,245
投資その他の資産	39,564	47,064	為替換算調整勘定	△12,103	△11,622
投資有価証券	36,905	45,134	少数株主持分	3,183	1,700
その他	2,658	1,929	純資産合計	162,048	157,867
資産合計	224,412	217,292	負債純資産合計	224,412	217,292

流動資産は、前期末と比較して123億8千9百万円増加し、1,431億2千万円となりました。主な増加要因は、グループ各社での「現金及び預金」の増加、年度末に向けての商量の増加による「受取手形及び売掛金」および余資運用による「有価証券」の増加です。

固定資産は、前期末と比較して52億6千9百万円減少し、812億9千2百万円となりました。主な増加要因は、設備投資による有形固定資産の増加です。主な減少要因は、関係会社株式の売却および株式市況の低迷による「投資有価証券」の減少です。

負債は、前期末と比較して29億3千9百万円増加し、623億6千4百万円となりました。主な増加要因は、連結の範囲の変更による「長期借入金」の増加です。主な減少要因は、「短期借入金」の減少、税制改正に伴う法定実効税率の減少および株式市況が低迷したことによる「投資有価証券」の含み益の税金部分の減少による「繰延税金負債」の減少です。

純資産は、前期末と比較して41億8千万円増加し、1,620億4千8百万円となりました。主な増加要因は、当期に獲得した「利益剰余金」です。主な減少要因は、自己株式の取得による「自己株式」の増加および配当金の支払いです。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期	第48期
	(2011.4.1~2012.3.31)	(2010.4.1~2011.3.31)
売上高	150,087	145,125
売上原価	101,635	96,962
売上総利益	48,451	48,163
販売費及び一般管理費	37,755	34,129
営業利益	10,696	14,034
営業外収益	3,216	4,507
営業外費用	799	1,179
経常利益	13,112	17,362
特別利益	3,871	105
特別損失	3,221	1,218
税金等調整前当期純利益	13,762	16,248
法人税等合計	4,728	6,335
少数株主利益	286	335
当期純利益	8,748	9,577

装置事業のさらなる強化を目的に資本業務提携関係にあった株式会社アドテックエンジニアリングの子会社化、EUV光源装置など将来に向けた新技術・新製品研究開発への積極的な投資、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、適地生産の促進など、引き続き全グループを挙げて業績の向上に注力した結果、**売上高**で前期比3.4%増の1,500億8千7百万円、**営業利益**で前期比23.8%減の106億9千6百万円、**経常利益**で前期比24.5%減の131億1千2百万円、**当期純利益**で前期比8.7%減の87億4千8百万円となりました。

包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期	第48期
	(2011.4.1~2012.3.31)	(2010.4.1~2011.3.31)
少数株主損益調整前当期純利益	9,034	9,913
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	383	△1,424
為替換算調整勘定	△535	△4,616
持分法適用会社に対する持分相当額	12	3
その他の包括利益合計	△139	△6,037
包括利益	8,895	3,875

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益を137億6千2百万円計上し、減価償却費が71億3千9百万円発生し、たな卸資産が3億8千4百万円減少した一方で、売上債権が6億8千4百万円増加し、仕入債務が26億9千5百万円減少したこと、および法人税等67億8千9百万円の支払により、123億8千2百万円の収入となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期	第48期
	(2011.4.1~2012.3.31)	(2010.4.1~2011.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,382	8,390
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,911	△1,679
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,615	1,081
現金及び現金同等物に係る換算差額	△47	△1,527
現金及び現金同等物の増減額	6,630	6,264
現金及び現金同等物の期首残高	34,954	28,595
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	94
現金及び現金同等物の期末残高	41,585	34,954

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻136億3千万円、投資有価証券の売却及び償還23億6千6百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入11億1千7百万円、および関係会社株式の売却75億円による収入と、定期預金の預入109億3千4百万円、有価証券の取得23億1百万円、有形固定資産の取得65億8千8百万円、および投資有価証券の取得22億7千5百万円の支出により、19億1千1百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れ11億8千4百万円の収入と、配当金の支払額29億4千万円、自己株式の取得30億1千3百万円の支出により、76億1千5百万円の支出となりました。

連結決算

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

第49期 (2011.4.1～2012.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
2011.4.1 残高	19,556	28,371	116,831	△9,215	155,544	12,245	△11,622	622	1,700	157,867
当期変動額										
剰余金の配当*			△2,937		△2,937					△2,937
当期純利益			8,748		8,748					8,748
自己株式の取得				△3,013	△3,013					△3,013
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						382	△481	△98	1,482	1,383
当期変動額合計	—	—	5,810	△3,013	2,796	382	△481	△98	1,482	4,180
2012.3.31 残高	19,556	28,371	122,642	△12,228	158,341	12,628	△12,103	524	3,183	162,048

※2012年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

(単位:百万円)

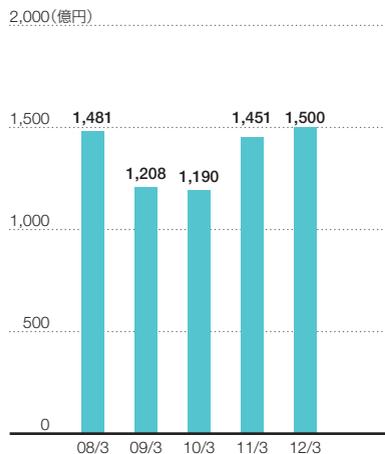
第48期 (2010.4.1～2011.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
2010.4.1 残高	19,556	28,371	109,925	△9,209	148,643	13,668	△7,096	6,572	1,469	156,685
当期変動額										
剰余金の配当*			△2,670		△2,670					△2,670
当期純利益			9,577		9,577					9,577
自己株式の取得				△6	△6					△6
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△1,423	△4,526	△5,949	231	△5,718
当期変動額合計	—	—	6,906	△6	6,900	△1,423	△4,526	△5,949	231	1,182
2011.3.31 残高	19,556	28,371	116,831	△9,215	155,544	12,245	△11,622	622	1,700	157,867

※2011年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

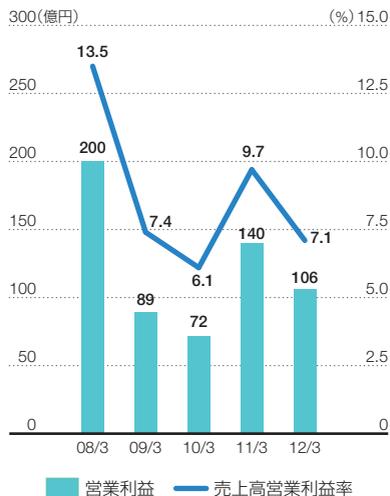
第49期の事業概況

数字で見るウシオ (連結ベース)

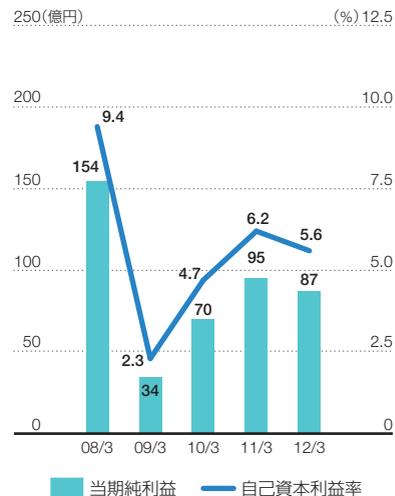
売上高



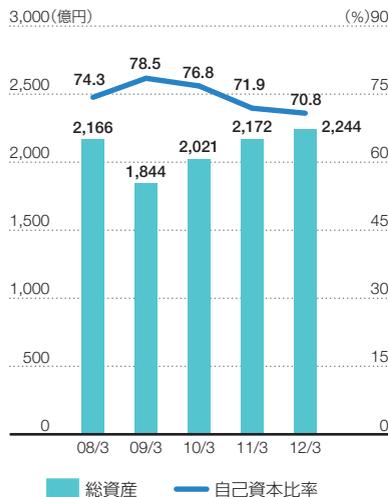
営業利益 / 売上高営業利益率



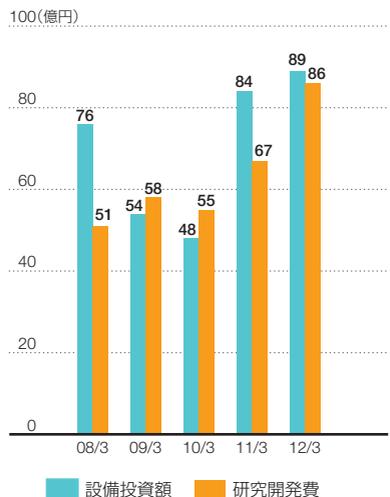
当期純利益 / 自己資本利益率(ROE)



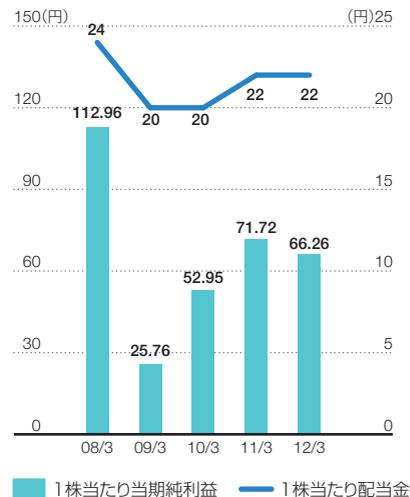
総資産 / 自己資本比率



設備投資額 / 研究開発費



1株当たり当期純利益 / 1株当たり配当金



※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

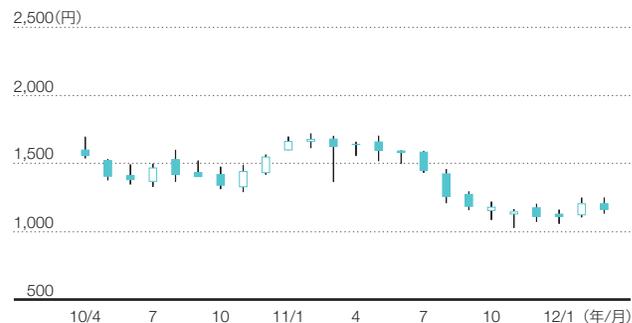
株主 14,669名

大株主の状況(200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,298	6.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,208	4.44%
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーションビー リミテッド	5,642	4.04%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
アールービーシー デクシア インベスター サービシーズ トラスト、ロンドン レンディング アカウント	4,103	2.93%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	3,744	2.68%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント	3,228	2.31%
牛尾治朗	3,201	2.29%
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	3,076	2.20%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,924	2.09%
メロンバンク エヌエー アス エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,445	1.75%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%

※上記のほか、当社が所有している自己株式8,499千株があります。
 ※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

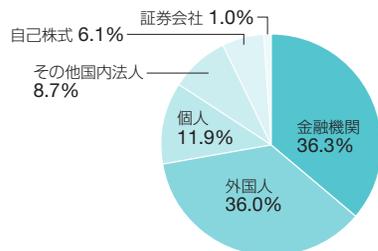
株価の動き



株式売買高



株式の分布状況



会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2012年6月28日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	大島 誠司
取締役	浜島 健爾
取締役	徳廣 慶三
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	後藤 学
取締役(社外)	中前 忠
常勤監査役	中一 進
常勤監査役	中山 繁樹
常勤監査役	神崎伸一郎
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	宮崎 靖亮
監査役(社外)	塩畑 一男

従業員数 (2012年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,791名
国内グループ計	721名
海外グループ計	3,219名
合計	5,731名

グループ会社 (2012年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
株式会社ジーベックス	
株式会社ウシオスペックス	
日本電子技術株式会社	
株式会社エピテックス	
株式会社アドテックエンジニアリング	他7社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- Vista Controls Systems, Corp.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- Dipl.-Ing. Reinhold Eggers GmbH
- NATRIUM Sp. z o.o.
- XTREME technologies GmbH

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.*
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

他12社

*2012年4月 USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.に社名変更

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株主確定日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株

株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行なっております。

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金の支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>

P・R・I・S・M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。